

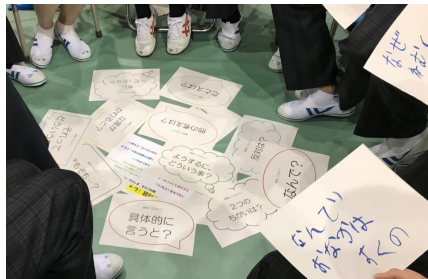
哲学対話 in 大山高校

4月に一年生に向けてオリエンテーションがあります。話すのは、大山で実施している自主参加型哲学対話『大山しゃべり場』のファシリテーター・堀越さん。

哲学とは「問うこと・考えること・語ること・聴くこと」

中でも、色々なことに『疑問を持つ』問うことが学問の本質なのでは？と語り掛けます。

教育に必要なのは答えではなく、強いて言えば「何が分からないか分かること」なのだそう。



教室から椅子を持って体育館にて一年生全員でオリエンテーションです。

最初の問い出しは、全員紙に書いて見せあいます。各グループにファシリテーターが入りますが、なんと放課後のしゃべり場（哲学対話）に何度か来てくれた上級生が、ファシリテーターとして参加してくれました！

哲学対話の手順は…

- ①円になって（出来ればイスに）座る
- ②ルールを確認する
- ③問い出しする（今日話し合いたい問いを決める）
- ④語る・問う



あら☆簡単！な手順です。ルールを守ることが大切で、中でも『何を言っても良い』が一番大切です。

『何を言っても良い』事が分かり始めると、面白い問いがたくさん出始めます。

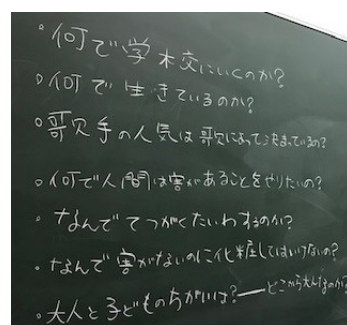
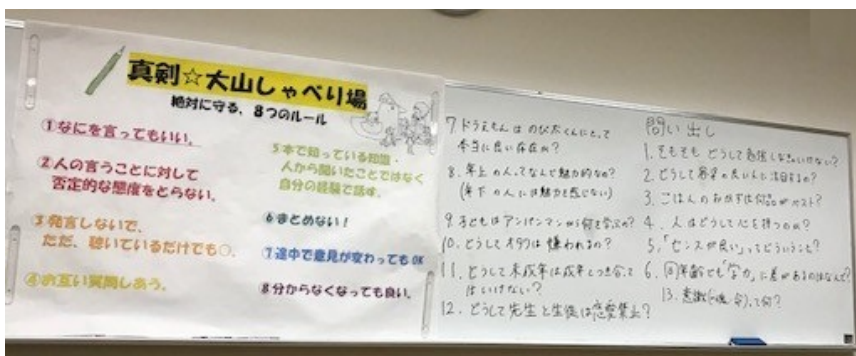
疑問に思うことは、良い事なのだ、と感じ始めるのかもしれない。

最初は「これを言っても良いのかな」と遠慮や、空気を読んでいたりする生徒も、だんだんと発言していきます。

哲学対話のルール

- ①なにを言ってもいい。
- ②人の言うことに対して否定的な態度をとらない。
- ③発言しないで、ただ、聴いているだけでもOK。
- ④お互い質問しよう。
- ⑤本で知っている知識・人から聞いたことではなく自分の経験で話す。
- ⑥まとめない！
- ⑦途中で意見が変わってもOK
- ⑧分からなくなっても良い。

これでもしかして…



家庭科での授業内での実践の掲示物です→

家庭科のテーマに沿った問いを出して語りました。実は授業で私語の多い生徒も社会性が身につけている発言をする様子も見られます！

本校のこのような取り組みや卒業生の活躍が令和元年5月に日本経済新聞に取り上げられました。

